

身近にある水を思う

部活から帰り着き、家でゆっくりしている
と、のどがかわいていることに気づく。蛇口
をひねり、コップに水を注ぐ。ジヨロジヨロ
と音を立てながら、とてもきれいな水が、蛇
口から出てくる。一口飲んだ。

「あー、おいしい。」

思わず、口から出てしまった。
そういえば、水道水をそのまま飲むことが
できる国は少ない、と聞いたことがある。そ
こで私は、インターネットで調べてみることに
した。

調べてみると、世界には一九六カ国もある
のに、水道水を飲むことができ、その安全が
保証されている国は、一五カ国だけだとい
うことがわかった。日本は、その一五カ国の中
に含まれているということを見ると、水道
水がそのまま飲めるということは、とてもあ

生駒市立上中学校 二年

高橋 杏芽

りがたいことだと考えさせられる。でもなぜ
一五カ国だけ水道水を飲むことができ、あと
の一人一カ国は、飲むことができないのだろ
うか。それに関しても、調べてみることにし
た。

海外だと、水道水が飲めない理由として書
かれていたものは、どの記事も共通してい
上下水道の設備が不十分ということらしい。
日本では、考えられないことだ。

私達は、飲み水のほかに、お風呂やトイレ、
洗濯などをするときも、たくさん量の水を
使っている。一日に一人が水を使う平均量は、
二八九Lらしい。日本の人口は、一億二六二
三万人ぐらいだ。その2つをかけ合わせると、
三六四八〇四七〇〇〇Lだ。とても大きな
数字になったので驚いた。それほどの水の量
を毎日使っているが、日本で水が無くなった

などという話は、一度も聞いたことがない。水が無くならないようにするための工夫を、何かしているのだろうか。

そもそも地球は、「水の惑星」と呼ばれるほど、水が豊富だ。しかし、いくら豊富だからといって、人間や動物は、毎日水を使う。それに、太陽の熱で蒸発したりする。そのままでは、地球の水が無くなってしまわないか考えた。

しかし、地球上の水はすべて「循環」しているということを知った。

私達が飲んだ水は、尿や汗などとして排出される。また、料理などで使った水は、下水に流れ、下水処理されて、川に流される。そして海へ流れ出る。海水は、太陽の熱によって蒸発し、水蒸気となり、雲ができる。そして、雨となり地表に降り注ぐ。その水を利用して、私達の飲料水となる。これを「循環」という。つまり、この「循環」によって地球上の水は、総量が変わらないまま循環していると言える。それでも、水は無限ではない。日本に住む私達のまわりには、いつもたくさんきれいな水がある。そのため、その状

態に慣れてしまっている。水が無くなってしまうかもしれないという不安は感じないし、水の大切さを、忘れがちになってしまう。それでも、一人一人が、日本はいつでもきれいな水を飲むことができるということと、水の大切さを、心にとめておけば、水を汚さずにすむだろう。

そのために、私達ができることは、川や海などにゴミを捨てたり、下水に油をそのまま捨てたりすることをやめることだ。水を、流しっぱなしで使うことをやめる。工場から出る排水は、きれいに浄化してから川に流す。みんなが少しずつ、意識し続けることで、私達の未来も、自然がきれいな地球で、生きていけるのだろうと思う。

私達が生きていくうえで欠かせない「水」は、ずっと大切にしていかなければならないと思う。